



Title	高校生の学習における自己形成課題の意識化
Author(s)	井上, 大樹; INOUE, Hiroki
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 98, 173-192
Issue Date	2006-06-30
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.98.173
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/14437
Type	departmental bulletin paper
File Information	98_173-192.pdf



高校生の学習における自己形成課題の意識化

井上大樹*

Learning a Method of Identity Formation in High School

Hiroki INOUE

【目次】はじめに

- I 社会的自立における高校教育の課題
- II 「生き方」を問う授業づくり～S商倫理「自由課題研究」～
 - 1 S商業高校の特徴
 - 2 倫理の授業改革
 - 3 自由課題研究の実施
 - 4 発表内容および方法における傾向
 - 5 生徒の評価傾向
 - 6 調査と学習の展開～Hさんを事例に～
 - 7 小括
- III まとめと今後の課題

【キーワード】青年期教育 総合学習 公民科教育

はじめに

若者の就職難の深刻化を契機に、青年期枠組みの危機に拍車がかかっている。近年の若者の自立へのルートの消失傾向は、数十万人ともいわれるニートの社会問題化によっていよいよ表面化した。つまり、多くの高校、大学において職場（社会）への接続機能を失ってしまったことになる。これに対して、むしろ学校の外からこの問題へのより具体的な教育的対策が積極的に実践、議論されているように思われる。厚生労働省は、合宿形式で生活訓練、労働体験を行う「若者自立塾創出推進事業」を2005年度から実施した。この助成を受けた機関の多くがフリースクールや引きこもりの社会復帰の支援に長年取り組んできた民間教育機関であった。また、多くの経済団体や教育学以外の研究者から出されたインターンシップ早期導入の提言によって、多くの学校で取り入れる動きに結びついた。しかし、高校、大学における教育機能が根本的に見直されることはなく、公立高校の再編、国立大学の独立行政法人化に象徴されるように、むしろ淘汰、解体が進行している。

高校では多くの生徒が学校のあらゆる「学び」から逃避し、卒業後もモラトリアムの長期化

* 北海道大学大学院教育学研究科教育計画講座博士後期課程（社会教育研究グループ）

などにより浮遊した生活に追い込まれている。これは、ライフコースとして自明となっていた就労や社会的責任など大人への成長コースが崩れ、抽象化されていると言える。このことは、モラルの低下・崩壊などに象徴されるように、彼ら、彼女らの日常からでは現代社会にリアリティをもてないことと関連していると考えられる。一方で、いくつかの学校では、従来の学びの形式を乗り越え、地域住民と共同で生徒が授業を自主的に組むなど、総合的学習の時間も活用しながら地域とつながる学習をゆるやかに組織する試みが進んでいる。

これまでに筆者は高校の地域参加型自主活動による青年期教育の現代的可能性を論じてきた。これは、地域における生活課題を住民と協同で解決し、時には行政へ参画する中で、同世代や他世代との社会的関係を豊かにするプロセスに創造的な自己形成を内包していたからである⁽¹⁾。

一方で、このようリアリティがある大人像をつかみ自己形成課題の意識化に結びつける学びは生徒たちの日常である学校内では不可能なのだろうか。高校における倫理は生き方について系統的に学ぶ科目であるが、より青年期課題に即した内容構成や授業展開が本格的に追求されはじめている⁽²⁾。これを手がかりにすることで、日常的な学習の場である学校内における創造的「生き方」学習への接近の可能性があるのでないかと筆者は考える。

そこで、本論では人生的課題の発見とその共有を通じた社会的自己の形成を試みた教育実践の検討を通じ、高校の授業などの日常の学校内における自己形成課題の意識化に結びつく学習展開の可能性とその条件を明らかにしたい。

I 社会的自立における高校教育の課題

近年、都道府県によっては急速に進行しつつある公立高校改革では、さらなる競争強化につながる学区の拡大、進路多様校や定時制の高校統廃合など新自由主義的要素を強く持ち公教育の機能縮小が見られる。残された高校も、中高一貫教育や予備校との連携を強化するエリート養成型と、デュアルシステムに象徴されるより直接的な就労訓練を重視する型に二極化が進みつつある⁽³⁾。しかも後者の型の高校を卒業して待っているのは、非正規雇用による流動的労働者層への組み込みであることは想像に難くない⁽⁴⁾。これは、現在の若者の生活が二極化している実態と対応しているようにも思われる⁽⁵⁾。つまり、高校は学校教育法第41条の目的規定にある「高等普通教育及び専門教育」を保障することなく、階層再生産の正当化装置としての機能をより強めているといえる事態に至ったのである。

これに対し、生徒の社会的自立の課題を市民あるいは主権者形成に結びつける実践が進められてきた。近年では、総合的学習の時間を活用したり⁽⁶⁾ 地域参加に結びつける⁽⁷⁾ などの個別の実践から、本格的にカリキュラムを再構成する試みも見られる⁽⁸⁾。

また、カリキュラムのみならず子どもにつけさせるべき学力内容の見直しも進んだが、知識量以外にその基準をどう見出すかが大きな課題となっていた。門脇厚司は、社会と自己を上手くかかわらせるかどうかという意味で「社会力」を基礎におくべきと提起した⁽⁹⁾。彼は、舞鶴市の子どもの権利条例の制定をきっかけとした総合行政計画への参画などを例に、実際の地域参加を組み込む実践的市民教育の必要性を唱えたのである。実際には子どもや若者たちが縁辺化されつつある疎外感にこそ真の社会的要求が潜んでいるが、そこで生じる目の前との大人との対立、葛藤をどう乗り越えるかという学習課題への視点がない。つまり、彼が想定する子ども

たちが創造的に社会形成の担い手になるための教育的条件が明確でない分、自己責任論に収斂される社会的モラル形成の基準にもなりかねない。

つまり、社会のあらゆるシステムの変動が激しい今日、思春期青年期では自己形成を基礎とした社会的自立への学習が必要といえよう。これからは、社会的な関わりを通じて企業社会やマスコミなどに影響されない（借り物でない）生き方・人生観を持つことが社会的に自立する重要な要件になろう。そのために、多様な生き方・人生観に「出会う」ことが大切であり、さしあたり普段の自分たちの生活にかかわりのある地域、あるいはそのこの大人を学習の対象とすることは有効であると考えられる。このような取り組みにおいて、地域にいる様々な住民との出会いが高校生に刺激を与えるといわれている。では、その教育的機能とはどのようなものか、どのような学習が高校生の自立像の組みかえにつながるのかを検討する必要がある。

中西新太郎は、非正規雇用の継続を余儀なくされる「第二標準」の層が安定的に生活を送れ、社会的自立を実現できる経済的、文化的条件の協同的構築を含むような自立プロセスの確立を提起している⁽¹⁰⁾。しかし、自立の経済的条件的安易な引き下げは「生のミニマリズム」の進行による社会退出願望は食い止められないのではないかという危惧もはらむと中西自身が指摘している⁽¹¹⁾。

一方、竹内常一は「総合的学習の時間」などに見られる「学び方学習」は、自分たちのおかれている状況を自己責任に帰し、スクラップされたキャリアは自分で建て直させる意味において、ひたすら閉じた「自分探し」に向かわせる生き方を志向させようとしているという。これに対し、学校的価値観や国家主義的アイデンティティ及び新自由主義的価値観を相対化しうるものの見方を培い、「学びと参加」を「平和的な国家及び社会の形成へと開き」、「個別的全体性を帯びた個性＝人格」の形成に向け、他者との批判的応答と対話を契機とした「批判的学び方学習」を提起した⁽¹²⁾。ただし、これには学習の中でどう応答責任意識を促すかという疑問が残る。これについて竹内は権利に対する世界や歴史への応答責任の必然性を唱えているものの、多くの若者が抱いている「なんでもあり」意識に潜んでいる疎外感を学習要求まで意識化するプロセスが明確でない。よって、「参加」の内実を規定する教師と生徒との関係性が批判的なものにまで高まる見通し、つまりは創造的な人格形成と結びついた学びへの展望がひらけない。

これらから、身近な関係性に潜む抑圧的なマイクロポリティックスの転換をどう学習過程に含むかという課題が導きだされる。そこで、同世代の集団づくりこそ彼ら、彼女らの成長を支えるという「世代の自治」⁽¹³⁾の形成が要件となるが、興味関心の多様化、ディスコミュニケーション、言語化が進まない中で閉鎖的かつ関係の希薄な小集団に繰り返す悪循環をどう断ち切るかが大きな課題となる。これに対し平塚真樹は、信頼関係の構築を基礎にした参加的な学習は学習内容の共同化あるいは社会化へつながり、社会的関係を解体された若者たちの創造的社会形成力の再生につながると述べている⁽¹⁴⁾。

以上から、同世代の信頼関係の構築と異世代の信頼関係の構築を絡めた学習の中に、創造的「生き方」を見出す可能性があるのではないかと考える。高校の総合学習においては、いわゆる対抗的な系統学習（国民共通教養の習得）につながる「科学的な意味での総合」か、生徒の思想や行為行動に結びつくことを目的とする「自己形成としての総合」のどちらかに軸足を置いて展開されてきた。このうち「自己形成としての総合」学習の展開では、他者との相互理解に結びつけられるようにして自らの思想や行為行動を規定するレトリック（「主体の相互説得の論理」）の獲得が重視されてきた⁽¹⁵⁾。このことから、学校内の学習における自己形成課題の意識化

のプロセスは、社会とのつながりを対等に持つことによって生徒が抱えてきた疎外感を克服するレトリックを獲得し、既存の教科内容に潜む日常の学校的価値を逃避ではなく批判的に問いながら自らの生き方を見つけるプロセスであると考えられる。倫理の授業の場合、教科書にある学習内容やそれに潜む論理が批判の対象となる。そのプロセスに生徒同士や生徒と教師、生徒と他の大人との信頼関係の形成を基礎づけられることで多様な自立意識の萌芽につながるのではないかと考える。

これを検証するため次章では、高校倫理・自由課題研究授業の事例検討を通じ、高校生が親・教師以外の大人の助けを得ながら現実の社会事象に対する問題意識を深め、生徒一人ひとりが創造的「生き方」を学ぶ契機となる学習の内実について論じる。

II 「生き方」を問う授業づくり～S商倫理「自由課題研究」～

1 S商業高校の特徴

S市にある公立S商業高校（S商）は、1964年に開校した1学年8クラス約320名の都市部における大規模職業高校である。1999年に商業科8クラスを流通経済科，国際経済科，会計ビジネス科，情報処理科の4学科（各学科2クラス）に改組した。S市の職業高校の中では突出して学力が高く、普通科高校でも中堅進学校とほぼ同等の水準である。かつては地元の有力企業や公務員，金融関係への就職が主な進路であったが，近年では専門学校や大学への進学が多数を占めている（表1参照）。

学科に関わらず，生徒の8～9割が女子である。生徒の多くは入学当初から就職などを意識し，資格取得に熱心など，自立志向が強い。部活などの放課後活動への参加も7割に及ぶ。しかし，友人関係の質などから自分の気持ちを表に出す機会がなく⁽¹⁶⁾，学校の中では自らの「生き方」を見つめる契機はなかなか得にくいようである。

2 倫理の授業改革

S商では倫理は2年の必修科目（2単位）である。1997年度から主にK教諭が受け持っている。

K教諭はかねてから，日本史や現代社会の授業を通じ生徒のグループ発表による授業づく

表1 平成16（2004）年度卒業生の進路状況

進路区分	内訳	男子	女子	計	割合
就 職	学校斡旋	7	98	105	38.3%
	公務員	2	5	7	
	自己開拓・縁故	1	8	9	
進 学	大学	10	26	36	53.2%
	短大	0	29	29	
	専門学校	4	95	99	
	看護学校	0	4	4	
そ の 他	—	3	24	27	8.5%
合 計		27	289	316	100.0%

出典：http://www.sattosho.ed.jp/welcome.html

り⁽¹⁷⁾などをすすめていた。S商で倫理を受け持ってから、倫理を生き方の見通しがもてる授業にしたいと考え、以下のような授業改革をすすめた。

まず、生徒たちの多くが抱える人生における問題を具体的に扱う自主単元の構成(表2)と教科書から授業で扱う内容の絞り込み(表3)を行った。まず、青年期についての授業の自主編成を最初の単元に編成し、中学校までの被教育体験の振り返りから引き付けて考えられるテーマを設定した。また、S商ではひとり親(母子)家庭であるものが他校に比べて多く、このことが多くの女子生徒のものの考え方や進路意識などに影響を与えていた。これに应答する形で、1学期の青年期についての授業に「性と愛について」の単元を追加するとともに、まとめの単元として家族についての授業の自主編成を行った⁽¹⁸⁾。

一方で、教科書の思想史の内容の精選を進め、各単元で扱う思想家を一人に絞り込んで扱うこととし、1年間の授業を「青年期」「思想史」「現代社会の課題—家族」の3部構成とした。さらには、これらの学習のまとめとしてA4用紙10枚以上の自分史の製作を最終課題とした⁽¹⁹⁾。

表2 S商倫理の年間指導計画(2001年度)

<1学期>(27時間)	
第一章 青年期の課題と自己形成	
○1. 人間とは何か—狼に育てられた少女— / ○2. 青年期とは何か / ○3. 自我のめざめ / □4. 劣等感と悩み / □5. 「いじめ」について / ☆6. 愛と性について / ○7. 自分をつくる—性格は変えられるか— / ☆8. 学校ってナンダ? / ○9. 自立するということ / ☆10. 青年期を学んで—まとめ— / ☆11. 自分史を書く(ガイダンス)	
○ 第二章 人間としての自覚	
1. 古代ギリシアの思想—哲学の誕生— / 2. ソクラテス(1)—無知の知から知への愛へ— / 3. ソクラテス(2)—ソクラテスの弁明— / 4. プラトン(1)—イデアとエロス—	
夏休み 自分史の作成	
<2学期>(32時間)	
5. プラトン(2)—魂の三分節と理想国家— / 6. 古代中国の思想と諸子百家 / 7. 孔子(1)—仁と礼— / 8. 孔子(2)—君子と徳治— / 9. 老子—道と無為— / 10. 宗教とは何か / 11. イエス(1)—ユダヤ教とキリスト教— / 12. イエス(2)—アガペーと隣人愛 / 13. イエス(3)—十字架上の死と復活— / 14. 仏陀(1)—仏陀の生涯— / 15. 仏陀(2)—四諦八正道— / 16. 仏陀(2)—慈悲の心 / 17. マホメットとイスラム教	
☆ 第三章 現代社会と人間	
1. 「家族」ってナンダ? / 2. 結婚する? しない? / 3. 「家」と結婚するの? / 4. 男は仕事, 女は家事? / 5. 別れる? 別れない? / 6. 子どもはなんん? / 7. 子育てって大変? / 8. 親の世話・介護は誰が? / 9. 「家族」を学んで—まとめ—	
☆ 第四章 自由課題研究発表	
1. テーマを決める	
冬休み 2. 調査研究(発表レジュメ作成まで課題)	
<3学期>(16時間)	
3. 発表(プレゼンテーション) *クラス毎 / 4. 全体発表 *学年 / 5. 感想, まとめ *期末試験	

○ 教科書を使用している単元 □ 教科書+自主教材ですすめられている単元

☆ 自主教材(生徒の発表を含む)ですすめられている単元

表3 使用教科書（東京学習出版社）の構成と授業使用状況（2001年度）

第1編 青年期と人間としての生き方
第1章 青年期の課題と自己形成
第1節 人間性の特質 ○1. 人間とは何か / 2. 人間として生きる 第2節 青年期の意義と課題 ○1. 青年期とは / ○2. 自己の発見 / □3. 人間関係の広がり / □4. 適応と性格（個性）の形成 / □5. 青年の自己形成 / □6. 現代青年の生活と意義
第2章 人間としての自覚
第1節 自覚的に生きる 第2節 ギリシアの思想 ○1. ギリシア人の考え方 / ○2. ソクラテスの生活と思想 / ○3. プラトン / 4. アリストテレス / 5. 哲学と人間の生き方 第3節 キリスト教の思想 1. ヘブライ人の考え方 / ○2. イエスの生涯と思想 / 3. キリスト教の展開 / 4. キリスト教と人間の生き方 ○第4節 イスラムの思想 第5節 仏陀の思想 1. 古代インド人の考え方 / ○2. 釈迦の生涯と教え / 3. 仏教思想の展開 / 4. 仏教と人間の生き方 第6節 中国の思想 ○1. 古代中国人の考え方 / ○2. 孔子の生涯と思想 / 3. 儒教の展開 / 4. 道家の思想 5. 中国思想と人間の生き方 第7節 人間形成と芸術
第2編 現代社会と倫理
第1章 現代社会と人間
第1節 現代とはいかなる時代か 第2節 現代社会の特質 □核家族化の時代/高齢化社会の到来/情報化社会と人間/国際化の時代
第2章 現代社会を生きる倫理
第1節 人間の尊厳 / 第2節 科学技術と人間 / 第3節 社会と個人 / 第4節 幸福と自己実現 / 第5節 生命への畏敬 / 第6節 現代の倫理的課題
第3編 国際化と日本人としての自覚
第1章 日本の風土と日本人の考え方
第2章 外来思想の受容と日本の伝統
第1節 仏教の受容と展開 / 第2節 儒教の受容と展開 / 第3節 国学と民衆の思想 / 第4節 西洋思想の受容 / 第5節 近代的自我と伝統
第3章 世界の中の日本人

○ 授業でそのまま使用されている単元 □ 内容を再構成した上、授業で使用されている単元

これは、自分が今ある生活現実を深く理解し、自分のライフヒストリーについて振り返り、将来の生活イメージを膨らませることを通じて自分はどう生きたいか、そのために自分を取りまく社会現実に向き合うかを生徒一人ひとりに考えさせる契機を作ろうという試みであった。

3 自由課題研究の実施⁽²⁰⁾

「自由課題研究授業」（自由研究発表）は1999年度からはじまった。これは「考える」授業づくりを進める上で、一方的な講義の授業形式も変え、生徒同士が教えあい、学びあう授業を取り入れなくてはというK教諭の問題意識からであった⁽²¹⁾。総合的学習の時間も意識したというねらいの一つは、「自分で課題を見つけて自分で調べて考えてまとめて発表できる能力」を身につけさせることであった。また、生徒から発信する形態のコミュニケーションを軸とした授業づくりへの試みでもあり、倫理という教科の特性を活かし自分の生き方を考えることをその基礎にしたいと考えていた⁽²²⁾。

自由研究発表は冬休み前から3学期にかけて行われる。2学期末試験以降、生徒一人ひとりが三つのテーマ群（「人生・生活・生命」「現代社会・現代史」「思想・倫理・心理」）の中⁽²³⁾から課題を見つけ冬休み前までに調査計画を練り上げる（図1）。その際、2冊以上の文献を読破するか現場の取材活動を行うことが条件として設定された。

指導の重点はテーマ設定などの調査計画におかれ、研究意図がよくわからない、学習支援が難しいと思ったテーマなら再提出となった。再提出はほとんどの生徒が経験していた。一方で、却下されても何回も同じテーマでどうしてもやりたいと言った生徒はそれで調べさせた。個別指導によるK教諭の関わりは年を経る毎によりねばり強く聴くことに重点をおくようになったという⁽²⁴⁾。つまり、テーマ設定における個別指導の場面は、K教諭という一人の他者理解を条件とするハードルを設けているとも言える。

また、テーマを吟味し、調査を進める際、400冊ほどに及ぶK教諭の所蔵書籍を活用させてい

図1 自由研究発表の調査計画シート

る。さらに、可能な限り地域の施設や働いている大人を訪ね、現場でボランティアなど実際に体験をするようにアドバイスした。しかし、お膳立ては一切せず、生徒たちを地域へ「放り出す」。調査は冬休み中に各自で行い、現場に行く生徒は対象になる施設の検索から交渉など準備から自分で行った⁽²⁵⁾。

なお、前年度までに先輩たちが作成したプリントも、テーマ選びの時から自由に閲覧できるようになっていた。このことは、よりよい発表づくりに大きく貢献した。一つは、テーマ設定にあたってなるべくオリジナリティのあるものを選ぶ傾向につながったこと。もう一つは、レジュメのまとめ方などについて参考にする一方、「読みづらい」と思った点は自分のプリント作成時に気をつけるようになったことである。

発表レジュメ（B4両面）は、公平性を期すため冬休み終了直後に締切が設定された。3学期の授業では全ての時間を使い、実物投影機やコンピューターを活用し一人10分程度の発表を全員行う。1人の発表が終わると生徒とK教諭による評価を行う（図2）。この期間の授業は私語もなく、発表予定者はあらかじめ授業前に準備を行うなど自主的かつ規律よく進められていた。

学年末試験では、自由課題研究における学習を振り返り「1. 自分の調査について」、「2. 自分の発表について」、「3. 他の人の発表について」の感想を記述した⁽²⁶⁾。さらに、2001年度から、クラスで1番の評価をもらった生徒を代表とし学年全体の発表会が行われた⁽²⁷⁾。発表会では学年の全ての生徒が審査員となり（図3）、評価項目にかかわらず最も優れているクラス代表への投票数⁽²⁸⁾の順に順位が決められ、上位入賞者は全校表彰を受けた。

4 発表内容および方法における傾向

2001年度の生徒のテーマ選択は図4、図5の通りである。この年は人生に関わるテーマを選択した生徒が半数近くに及んだ。小項目別では⁽²⁹⁾、歴史的偉人や現代の著名人を取り上げるテーマ（人物）、福祉、教育、子育ての順に多かった。概ね、男子では歴史的偉人や政治家、時事問題を選択する傾向が強く、女子では福祉や医療、心理、文化人、芸術家を取り上げる傾向が強かった。女子生徒が圧倒的な割合を占めることもあり、自由課題研究を開始した当初は子

学年	氏名	①発表内容はテーマにそって、よく調べられているか。(調査)	②説明内容は分かりやすい説明力があるか。(説明)	③自分の考えがきちんと述べられているか。(意見)	④発表の態度がまじめで聞き取りやすいか。(態度)	⑤発表時間

①～⑤は5段階で、5＝大満足、4＝良い、3＝ふつう、2＝よくない

図2 自由研究発表の評価シート

学年	氏名	①発表内容	②説明過程	③意見発表	④発表態度	合計点数	総合判定
2年A組	さん						
2年B組	さん						
2年C組	くん						
2年D組	さん						
2年E組	さん						
2年F組	さん						
2年G組	さん						
2年H組	さん						

・評価は5段階で、5＝大満足、4＝良い、3＝ふつう、2としてください。
 ・自分のクラスの代表者には評価しないでください。
 ・合計点数を記入した後、総合的に最も優れていたと思う発表者を一人選び、総合判定の欄に○を記入してください。

図3 自由研究発表の評価シート（学年発表会）

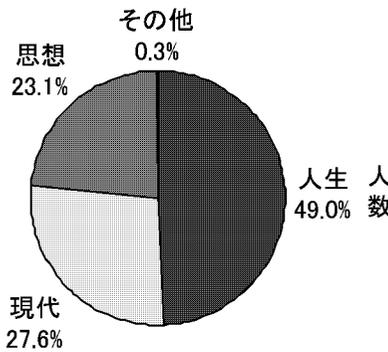


図4 生徒のテーマ選択 (2001年度/大項目)

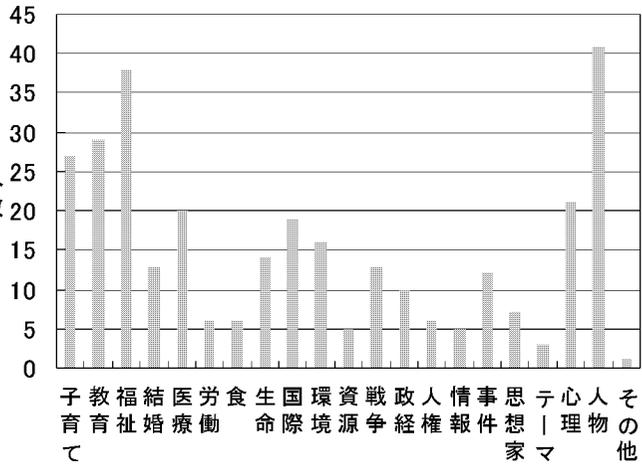


図5 生徒のテーマ選択 (2001年度/小項目)

育て、結婚がかなり多かったが、ほかの人や以前の発表と重複を避けるため、敬遠する傾向がこの年度から出始めていた。

なお、条件にあった2点以上の文献を読みこなし生徒は4割余り、現地調査、取材を行った生徒は約2割であった。発表にプロジェクター（パソコン）を使用した生徒は約15%であった。

クラス代表になった生徒は、学年発表会の内容や方法をクラス内の発表からさらに工夫を重ねている。主に、スクリーンの効果的な活用をねらってパソコンやビデオ、教材提示機などを使用するようになった。学年発表会の前に行われるリハーサルを通じて、他の代表の発表見ながら技術を取り入れる場合が多く見られた。また、クラスと男女構成などが異なることから、対象にあったメッセージの伝え方を試行錯誤した生徒もいた。

5 生徒の評価傾向

2001年度に選出されたクラス代表の発表テーマは、「視覚障害者」、「狂牛病」、「野宿の人（ホームレス）」、「過疎地の小中学校」、「覚せい剤犯罪」、「女性の敵（性犯罪）」、「貧困下の子どもたち」、「古代エジプトの思想」であった。大きな特徴としては、全体の約2割であった現地調査、取材を8人中6人のクラス代表が行っていたことであった。

評価を得た発表の傾向としては、身にひきつけやすいテーマや発表者のメッセージ性が強く、態度が堂々としていることが挙げられる。また、発表方法も実演、実物呈示、現地取材の紹介を通じリアリティを感じられるものへの支持が高かった。また発表者自身の体験談を交えた話からは、その人の考え、思い、生きざまに対する強い共感や影響をクラス全体にもたらしていた。

また、普段の授業形態が不得手、すなわち教科書を読んで学習することの苦手な生徒が、積極的に地域に足を運び、非常に質の高い発表を行って高い評定を獲得する傾向があり、その生徒たちにとって学ぶことに対する自信や自己肯定感を新たに得ている。

6 調査と学習の展開～Hさんを事例に～⁽³⁰⁾

Hさんは痴漢の実態とその対策について発表し(図6)、多くの女子の共感を得て学年で一番の評価を得た生徒である。

しかし、「座学」といわれる従来の教科の授業には苦手意識が非常に強く、「社会科」(地歴・公民)についても例外ではなかった。テーマ選びは自分の身の回りにある出来事から探し、姉に小さな子どもがいたことから育児について調べることに決めようとした。しかし、このテーマで発表した先輩が過去に多かったことから、複数で比較されると自分に不利になるという判断からよりオリジナリティのあるテーマを探すことにした。そこで、自分が痴漢にあった時の出来事を思い出すのであった。

Hさんは制服のスカートを短めにはくなど、いわゆる多くの教師に「指導の対象」とされやすい生徒であった。特に、生徒指導の教師との折り合いが良くなかった。彼女にとって痴漢の被害にあったことは、この大人に対する不信感をさらに強く感じた事件でもあった。被害にあった日はショックの余り学校を休み、精神的に回復してから学校に報告すると帰ってきた言葉が「普段からそんな格好しているから(被害に遭うんだよ)。」であった。さらに傷ついた彼女は被害届すら出す気も失せてしまったという。しかし、発表をきっかけにこの怖い体験をする女性が増えないよう、どうしたら防げるかも含めて調べ、周りの女子生徒に伝えたいという強い気持ちがこの後の彼女の行動力につながっていった。

テーマを「性犯罪」に決めたHさんは、痴漢の実態とその防止策について調べるため学校近くの警察署を訪ねた。これはK教諭のアドバイスがあったからであり、「頑張ってるよ。」と送り出された。ただ、自分のことを理解してもらえるかどうかずっと不安だったようである。また、「マニュアル通りの事しか教えていただけない」のではないかと心配していた。しかし、担当の女性警官に自分が被害にあったことなどを交えて調査の経緯を説明すると、「今の子がスカート短かったら色気ないよね。」と自分のことをまず受け止めてくれたのである。「泣きそうになった」くらいの経験が大人不信を吹き飛ばし、女性警官が話す痴漢対策について一心に聞き取り、護身術についても見よう見まねで必死にマスターしたという。

発表では自分のような被害に遭うことのないよう、対策についてのプレゼンを工夫しようとアイデアを練った。過去のレジュメを見てワープロは「つまらない」ので自分の味の出る手書きにし、対策については防犯ブザーを鳴らしたり、護身術については友人たちに協力してもらい実演を交えた内容となった。クラスでは全員が女子だったこともあり、共感できる強いメッセージを持つ、動きがあってわかりやすく興味の引く発表は圧倒的な支持を得てクラス代表に選出された。

ちなみに、Hさんが所属するクラスの発表テーマ一覧は表6の通りである。なお、感想文にHさんの発表に関する評価を記入した生徒は25人とクラスの過半数に達した。これは他のクラス代表と比較しても突出しており、いかに彼女の発表に対する評価が高かった(あるいはインパクトが強かった)かが伺える。感想で多かったのは、発表技術の豊富さや説得力に対する評価、痴漢に対する具体的な対策が学べて良かったという内容であった(表7)。

一方、クラスの他の生徒の発表からはHさんなりの視点で多くの学びがあったようである。この時間では、話すのが苦手だったり、字ばかりのプリントでも内容が充実している人や内容が難しくても発表者の強いメッセージに感動するなど、様々に表現される個性を受容できる時間でもあった。特に印象に残った発表として「乳児の子育て」、「ホームヘルパー」、「もし世界

が100人の村だったら」を挙げている。特に「乳児の子育て」については自分の姉の様子を思い出しながら、他の子と比較して不安にならないようにという発表者のメッセージを深く理解している様子が感想文からも伺える。

さて、K教諭からクラス代表の話があったときは、「勉強もの」で一番になることが信じられなかったようで、うれしさの反面、学年全体で発表する不安も抱えることになった。しかし、評価された自信が、「商業ホール（学年発表会の会場）の発表もがんばりたい」とさらなる試行

表4 Hさんの振り返り（インタビュー）

<p>① テーマ設定の経緯（K教諭の指導内容）</p>
<p>社会科は（本読んだり、暗記したりするので）苦手だった。はじめは、姉に子どもがいたから育児について調べたいと思った。でも、（子育てについて調べる人が多いと聞いたので）同じ内容で比較されるより、自分だけのテーマで発表したいと思った。この前に、痴漢の被害にあったのでそれについて調べようと思った。実際に被害にあった日は学校にもいけず、後で学校の先生たちに「普段からそんな格好しているから」といわれて傷ついて、被害届も出せなかった。</p>
<p>② 調査プロセス</p>
<p>被害の実態について警察署に聞いてみようと思ったけど、ちゃんととりあってくれるか不安だった。（担当の女性警官の方が）「何で調べようと思ったの」と聞かれ、被害にあった話をしたら、「今の子がスカート長かったら色気ないよね」とか「ちゃんと被害届出したほうがいいんだよ」と言われて、（初めてわかってくれる人が出てうれしくて）泣きそうになった。そして、護身術や「そうはいつでも被害に遭いたくないよね」と危ない場所など痴漢にあわない方法もいろいろ教えてもらった。</p>
<p>③ クラス内発表（形式、自己評価、クラス代表に選出された感想）</p>
<p>クラスの発表では、被害に遭わない方法を中心に伝えたいと思った。先輩のレジュメを見てワープロだと移しているみたいでつまらないので、手書きでみやすくした。まとめるのが下手なのであらかじめ話すことを絞った。また、防犯ブザーをならしたりインパクトをつけたりした。おかげで時間どおりにまとめて発表することができた。</p> <p>クラスで1番になったとK先生に言われてうれしかった。けれど、学年全体で発表するのはちょっと気が引けた。</p>
<p>④ 学年発表（さらに工夫したところなど）</p>
<p>（自分の）クラスは全員女子だったので、学年で発表するときは男子に敵視されていると思われないう、痴漢についてどう思うかインタビューをして紹介することにした。学年発表のリハーサルで、ホームレスの発表の人（K）が写真を使っているのを見て楽しそうだったので、警察署やインタビューした男子の写真の写真をスクリーンに出すことにした。内容とはあまり関係なかったけどインパクトが出て良かった。順番は終わりのほうだったので、みんな居眠りとかするんじゃないかと思ったけど、一生懸命聞いてくれて役に立てばいいなあと思った。</p>
<p>⑤ 自由研究発表を通じて得られたことや自分が変わったこと（ものの考え方、人生観、進路など）</p>
<p>結果学年1位になって校長先生に表彰されて、好きな発表もので1位になって（テストとかでは絶対になれないので）、誇りに思った。</p> <p>大人からはいつも怒られてばかりで好きでなかった。痴漢にあったときも相手にされなくて、警察署でも心配したけどちゃんと丁寧に教えてくれて大人もまんざらでもないと思った。進路はもともと資格を生かせる医療秘書に決めていたけど、（自由研究発表の直後は）しゃべる職業にも興味を持ったこともあった。</p>

錯誤につながっていた。学年には少数ながらも男子がいることに着目したHさんは、痴漢について正直な意見をインタビューし紹介することにした。実際には、スクリーンで一人ずつ写真を大写しにして意見を紹介するという形で「つかみ」とし、当初は「居眠りとかするんじゃないか」と心配した8人中5番目という順番的に不利な条件を克服し生徒たちが発表に聞き入

表5 Hさんの振り返り（感想文）

*原文ママ（但し実名表記は修正）

① 調査研究について	② （クラス内で）発表して
	<p>まず私は、今回自由課題研究を行って、すごく自分のためにも、女の子が多いクラスの人達のためにも役立てる事を調べられたと思いました。『性犯罪』という題を決め、調べてみたけど、やっぱり男の人が女をねらった時の行動は、すごく恐ろしいと思いました。自分の体験などもあり、「絶対に『性犯罪』を防ぎたい。防いでほしい」という願いがありました。</p> <p>やはり調べていて、一番力の入っていたのは、身を守る“護身術”を教えていただいていた時です。はっきり言って、警察をあまり当てにはしていませんでした。なぜならマニュアル通りの事しか教えていただけなと思っていただけからです。それに、短いスカートをはいている女性に問題がある... などと言われるのかと不安だったのです。しかし、現代の警察の方は、やはり現代の考えを持つ素晴らしい方でした。学生の場合、スカートの中にジャージなどをはくのは、女の色気がなくて襲う気にならない（笑）などと言って頂き、すごく好感の持てる方々でした。</p> <p>そして、実際に教えて頂いた事を、みんなに発表した時、すごく真面目に聞いてくれて、Mさんを犯人役で実演した時も、笑いなどのある中の発表となり、すごく気持ちよく発表を終える事ができました。実演した分、みんなにも言葉だけでは伝わらない何かが伝わったのではないかと思います。そして、性犯罪などが、私の発表によって、一件でも減ってくれたらなあ... と思いました。</p> <p>3学期の「倫理」は、すごく自分のために吸収できる、素晴らしい授業でした。このような事を、これからの自分に、何か生かせたらいいなと思いました。商業ホールでの発表もがんばりたいと思います。</p>
	<p>③ 他の人の発表を聞いて</p>
	<p>他の人の発表を聞いてみると、上手な人が多かったけど、中には話すのが苦手な人もいました。だけど、Ayさんは、すごく声が震えていたけど、内容などもしっかりしていて“±0”という感じがしました。</p> <p>ちょっと自分で興味があったのは、Gmさんの乳児の子育てです。自分には、7才年上の、もう結婚をしていて、子どもが2人（3才11ヶ月（男）と10ヶ月（女））いる姉がいます。だから子育てとは、身近に感じてしまうのです。Gmさんの発表には、はっきり言ってマニュアル（ママ）通りの事ばかりが書かれている気もしたけど、「あ!! そうそう。そうなんだよなあ。」とか、自分の意見を持って発表を聞くことができました。特に離乳食の話のところでは、こんな簡単に離乳しないよぉ? って思いました。姉の子供の3才のコは、好き嫌いが多くて、離乳食品は全く食べなくて、先輩ママさんに教えてもらったブロッコリーごはん（おかゆみたいなもの）しか食べなくて、それだけでは栄養が足りないの、おっぱいは出なくなったから、ミルクにはなったものの、ずっとミルクを飲んでいました。反対に10ヶ月のコの方は、ミルクも飲むけど、お兄ちゃんよりも、ごはんを食べてお菓子も食べて、マクドナルドのいもなども食べたりするので、ぶくぶく太っているのです。だから、私の意見を言わせていただければ、お腹に赤ちゃんがいると分かった時は、余計にいろんな事を調べないでGmさんも言っていたけど、自分の子は自分の子と考え、比べたりして不安にならずに育てられたらいいなと思いました。</p> <p>そして、私が最も衝撃を受けたのは、Taさんのホームヘルパーです。プリントは字だけだったけど、発表内容が充実してすばらしかったと思いました。特に、世界の人々と100人と考えた時の話は、何に感動して、衝撃を受けたのかわからなかったけど、目に熱いものを感じました。</p>

表6 Hさんのクラスの生徒の発表テーマ（順不同）

No.	性	テーマ	大項目	小項目	文献	地域	評価
1	女	少年犯罪	人生	教育	3	0	0
2	女	乳児の子育て	人生	子育て	2	0	1
3	女	人の性格	思想	心理	5	0	0
4	女	聴覚障害者	人生	福祉	5	0	1
5	女	オードリー・ヘップバーン	思想	人物	1	0	1
6	女	ごみ問題	現代	環境	5	0	1
7	女	ユダヤ人の迫害	現代	人権	3	0	1
8	女	こどもの病気	人生	医療	2	1	1
9	女	原発と放射能汚染	現代	資源	2	0	1
10	女	母原病	人生	子育て	2	0	1
11	女	<u>地雷について</u>	現代	戦争	4	0	1
12	女	いじめ	人生	教育	2	0	1
13	女	アメリカの教育	人生	教育	2	0	0
14	女	記憶喪失	思想	心理	4	0	1
15	女	乳幼児の子育て	人生	子育て	0	0	1
16	女	バリアフリー	人生	福祉	0	1	1
17	女	アコロ（飢えについて）	現代	国際	1	0	0
18	女	臓器移植	人生	医療	2	0	1
19	女	反抗期	人生	子育て	1	1	1
20	女	離婚	人生	結婚	0	0	1
21	女	サンリオについて	その他	その他	1	1	0
22	女	グリム兄弟	思想	人物	2	0	0
23	女	電磁波	現代	情報	2	0	0
24	女	遺伝子操作	現代	生命	0	0	0
25	女	働く妻	人生	労働	0	0	1
26	女	大久保利通	思想	人物	7	0	0
27	女	青少年の心理	人生	教育	0	1	1
28	女	豊かな国・貧しい国	現代	国際	2	0	1
29	女	糖尿病	人生	医療	3	0	0
30	女	<u>従軍慰安婦</u>	現代	戦争	2	0	1
31	女	ヘレンケラー	思想	人物	0	0	0
32	女	ホームヘルパー	人生	福祉	3	1	1
33	女	クローン	現代	生命	0	0	0
34	女	安楽死	人生	生命	5	0	1
35	女	障害者の生き方	人生	福祉	0	1	0
36	女	聴覚障害者	人生	福祉	4	0	0
37	女	遺伝子組替え食品	現代	食	3	1	0
38	女	性犯罪（女の敵）	現代	事件	0	1	代表
39	女	障害者問題	人生	福祉	1	0	1
40	女	アニマル・セラピー	思想	心理	1	0	1
41	女	ピーターパン症候群	思想	心理	0	0	0
計					17	9	24

文献：調査に使用した文献数。合計欄の数値は、2冊以上使用した生徒数。

地域：現場調査あるいはインタビューを行った場合は「1」、そうでない場合は「0」。

評価：自分の感想文にHさんの発表について記述した場合は「1」、そうでない場合は「0」。

*発表テーマに下線が引いてあるのは、Hさんが感想文で取り上げた発表。

表7 Hさんの発表に対する感想（抜粋）

*原文ママ（但し実名表記は修正）

<p>～中でも1番心に残っているのは、Hさんの「性犯罪」だと思う。テーマからして、けっこう興味深い(?)のにHさんの発表は本当に上手で面白くて分かりやすかった。実際チカンにあったら、Hさんも言っていたけど、怖くて声も出ないっていうのは私もスゴク分かった。今の時代、いつ殺されるか分かんないし、ヘタに刺激とかあたえちゃマズイとも思う。だからこそ、日頃からちゃんと考えなきゃなと思われた。</p>
<p>～私は、Hさんの「性犯罪」の実演がすごくよかったです。とてもわかりやすかったし、全然あきなかったの、なかなか内容がしっかり頭の中に入ってきました。Hさんの表現力は本当にすごいと思いました。</p>
<p>～1番印象に残っているのは“Hさん”ですね。テーマは性犯罪。なんといってもあの「チカンに出会ってしまったら……」ということで実演してくれたのは、よかったです。実は、その日帰りにさっそく会っちゃったんです（中略）かなり現実的で勉強になりました。</p>
<p>～Hさんの発表は一番すごかったと思いました。こう書いたら失礼に値してしまうのですが、外見に相反した奥の深い内要、現地（けいさつしょ）での調査発表、プリントのまとめ方……とてもよかったです。自分の実体験にもとづく調査・呼びかけには思わず聞きいってしまうものがありました。『性犯罪』は私達にとっても大変身近なものになりつつあります。本当に気を付けなければならぬと思われました。護身術……みんなで身に付けてみればと思いました。</p>
<p>～楽しかったのはHさんで、実演(?)混じりの発表で10分があつという間!!</p>
<p>～おもしろかったのはHさんの性犯罪についての話。実際ちかんにあったからこそあそこまでできたんじゃないかと思う。護身術みたいのとか勉強になった。なによりいつもと変わらぬHさんだったのがすごいと思った。</p>
<p>～発表のしかたがすばらしかったデス。実技もやりながら、きちんと自分の調べてきたことも発表して、きんちょうもしてなくてまるで先生みたいです。後からおそわれたら指を1本くらい折ってほしいなんて知らなかったです。もし、後からおそわれたら指折ってみたいです。（中略）一番楽しかったです。</p>
<p>～うまかったです。「性犯罪」。レポート(?)もですが、発表がすごかったです。実際の自分の経験をいかしつつ、警察署まで行き、すばらしいものを見せていただきました。実演までして本当によい発表だと思いました。とてもわかりやすくて、しっかりとしていて、おもしろかったです。つまらないと感じることなく10分強があつという間にかんじました。</p>
<p>～一番印象的でした。私は（中略）車から声をかけられたりしたことがあって、すごく怖かったのを覚えています。Hさんは自分がチカンにあったという事で、きっとすごく怖かったと思うし、そのことをみんなに発表しようというのがすごいことだな、と思いました。警察に行って調べるとかさっと勇気が必要だったと思いますが、すごくわかりやすい発表で、実際にチカンにあっても、本当に使えるような撃退法とか、ケータイをさわってだけでも有効だとか、（中略）すごく役に立つ発表でした。あの時Hさんがすごくかっこよく見えました!</p>
<p>～性犯罪についても人をつかったり警察へ行ったりしてよかったし、ちかんにあったときのたいしょほうみみたいなことがわかってよかったです。</p>
<p>～説得力もあって、自分の体験談、自分の対処の仕方とかきてたら「そういうふうによければいいんだ」とか納得してきて、分かりやすいし実際に対処の方法とかもやってみせたりで、ききやすかった。</p>
<p>～一番印象に残りました。（中略）いろいろと対処法をやってくれたのですごく助かりました。きっと、これを聞いてなければこのような方法もわからなかったと思うし。（中略）発表の態度とかも良くてわかりやすい説明だった。</p>
<p>～一番印象に残ってるのはXXX(Hさん)で、話しながらもいろんな道具を持ってきたり、実際にあすかを呼んで実演している姿はすばらしい!! と思った。完璧に変質者対策をマスターしてい</p>

<p>るって感じだったし、見てるこちらの方もわかりやすかった。みんなに気をつけるよう呼びかけていましたが、私的にはXXXに一番気をつけてほしいとそう思いました(笑)あれだけマスターしたらもう大丈夫とは思いますが、XXXの実体験を聞いて、やっぱり本当にそのような事態になったら何もできなくなるんだとそう思いました。</p>
<p>～発表は、おもしろくて、それでためになる情報を発表していた所がよかったし、すごいなと思いました。いろいろ納得できるところもあったし、すごく説得力もあったと思います。</p>
<p>～いちばん印象的だったのが、H!!!!!! 聞いててためになったし、楽しかったデス!! S商は女の子が多いし、この辺は変な奴らが多いからあの対策方はどこかで使えるかもしれない!? それに、被害届とかも見たけれど、最近のはちょっと前のと比べると、全然ちがって、エスカレートしてるんですねーと思いました。この世のおそろしさに気付かされました。と、Hの発表はすごく興味深くて、よく調べたんだな!!って思いました。</p>
<p>～実際に警さつへ行行って、護身術を教えてもらったっていうのは、すごいなあ～と思いました。もともと、女子高生の私達にとっては、興味深いテーマだったし、あんな演技を見せられたら……、インパクト大。発表内容もまとまっていたし、素晴らしいパフォーマンスだったと思います。</p>
<p>～私が1番良い発表だと思ったのはHさんのです。私も以前に何回かチカンにあったことがあるのでためになったし、発表中に実践してみんなに見せてくれたりしてとても楽しい発表でした。それに、私も背が小さいので、その人たちのことも考えてるのもすごいなと思いました。もし、またチカンにあるようなことがあればその時はぜひためしてみたいなあと思いました。</p>
<p>～驚(警)察で教えてもらった護身術が一番すごいと思いました。みんなの前で体をつかって後ろからおそわれた時や、腕をつかれられた時など本当にありそうな時の解決法などが勉強になりました。夜道とか危ないのでHさんの発表は、そういう時に何かあるかもしれないので、とてもいいテーマでよかったです。しかも1対1で話しているように、みんなになげかけたり、顔をみて発表していたので、よかったです。</p>
<p>～Aも前にでてチカンにあった時のたいしょ法!! うちも1回チカンにあったコトあるから勉強になったあー。うちのクラスは全員女だからみんなに役立つコトだったと思いました。しかもただ話してるだけじゃなくて実際にやってみたりして役立つコトもあったけどすごい発表でした。</p>
<p>～ナンバーワンはHさんです。自分の身を守るときにどう行動を起こすかは、頭でわかっていても体が動かないことはけっこうあると思うんです。それについて、警察署に行って詳しく調べ、さらに身の守り方を実践(?)してくれたことがとても良かったし、面白かったです。やり方も自分が知っていたのとは違ったし、未然に防ぐ方法も教えてくれました。あれは本当に良い発表だと思います。</p>
<p>～1番印象的だったのがやっぱりHさん。(中略)変質者のげきたい方法がおもしろかったです。アシスタントにMさんが出たのもよかった。何と言ってもここをけるだのうでくらははおって下さい☆だのおもしろかった。変質者にも種類がある事を知ることができました。見せる人とかさわる人とか。実際に会った人の体験談がのっていて、読んでみるとこわかったです。なんでこんな人がいるんだろうと不思議に思いました。</p>
<p>～本人が体験してしまったチカンのぼうぎょさくとかかなりくわしく調べてあって、実えんもあったしかなりわかりやすくインパクトをうけました。(中略)自分の気持ちとか発表の中でみられて、いっしょうけんめいさが伝わってきたので、すごくよかったです。</p>
<p>～特に、実際にけいさつしょにいて調べてある所とか、けいさつ署で教えてもらった技とか!? やっぱ、教えてもらった技を実際に見せてくれたから「あー、ああいう時にこうすればいいんだなあ」とか思って、おぼえられる。もしかしたら、実際つかえないかもしれないけれど、知っていたほうがやっぱ役立つ事だし、良かった。</p>
<p>～おもしろおかしく、しかもわかりやすく役に立つようなことを調べていて本当によかったと思います。</p>

る雰囲気をつくりあげたのである。また、実演を交えた発表は8人のクラス代表のなかではHさんだけであり、プレゼンにさらに磨きをかけた結果、学年でも1位の支持を得たのである。テストでは絶対にありえない校長からの表彰を受けたことは、「好きな発表もので1位になれて」「誇りに思った」と非常に大きな自信を獲得したようである。

自由課題研究はHさんにとって、学校という場で自分を自由に表現できそれが評価されたという点で「すごく自分のために吸収できる、すばらしい授業でした。」と振り返っている。また、進路意識にも一時影響があつていわゆる「しゃべる職業」を希望した時期もあつたようだ。

7 小 括

以上から、自由課題研究は生徒一人ひとりにとって、社会（学校外の大人）や学校の授業、生徒や教師の関係を結び直すと共に、自分の生き方を問い、見つける一つの契機になっていたと考えられる。

調査計画の作成では、K教諭との対話を通じ、日ごろ気になっていたことを問題意識として喚起し、この学習を進めるにあたっての社会との接点をより具体的に見つけるプロセスが見られる。聞き取りなどの地域に調査に出ると、自分の素朴な疑問が思いのほか受け入れられ、調査対象に対してその実態に即した理解をするよう努力する契機となる。自らアポイントをとったそれぞれの現場で一人の人間として対応してもらうことで大人への見方が変わったり、社会と自分との関わりを深く見つめなおし、諸問題に主体的に関わろうとする姿勢が出てきている。そのことにより、社会に対する新しい価値観が形成される。

Hさんの事例に象徴されるように、自分の興味関心から調べきった（社会現実から「生身の知識」を得た）ことを、発表内容及び方法を吟味し伝えきったことで他の生徒に評価されることで自信をつけてきている。調査した生徒のみならず、「40人の発表が40時間分の授業になっている」（K教諭）という充実感をクラス全体が共有している。つまり、クラス全員の発表によってさまざまな切り口による社会現実に触れることができ、結果としてある社会像をクラスで共有できた。

自由研究発表の授業は多くの生徒たちにとって、「頭をやわらかくする学習」、「『生きた』知識が得られる」（Hさん）と従来の教科教育にはない新鮮な体験ができた充実感を感想に綴っている。この調査と学びのプロセスについて感想文を書くことで振り返ることによって、自分が得た価値観を確認している。この授業がきっかけで、プレゼンが高く評価されて「しゃべる職業に興味をもった」Hさんのようにこれからの生き方にどうつなげるかを考えるきっかけになっている生徒も見られた。

III まとめと今後の課題

以上から、S商倫理「自由課題研究」のように、自分で深めた問題意識を持ち込み地域の人に「出会う」ことから現実社会・地域から「生き方」を学ぶことは、自己形成の意識化の契機になりうる事が明らかになった。また、一連の学習において生徒の主体性を常に促し続けることで、自らで共感的な他者と出会い、身近な他者（友人、教師など）からの評価を得ながら生徒自身のアイデンティティを深めていると考えられる。

Hさんの事例では、調査テーマを育児から痴漢に変えることで自分の経験からさらに強まっ

た「大人不信」や負ってしまった心の傷をどう乗り越えるかというより厳しい問題へアプローチすることとなった。これは、自分と身の回りの社会的関係との断絶（信頼関係の消失）を自らの手で修復する契機になったと言える。その後に出会った女性警官とのやりとりでHさんは自分の格好を受け入れてくれることにより、一人の新しい他者との信頼関係を結ぶことができ、心の傷を修復する試みに移行できた。それは、その調査で学んだ痴漢対策を同じような被害に遭うかも知れないクラスの女子生徒たちにあらゆる手段を用いて伝えきるという行動となった。結果、関心があるテーマであることや、発表技術の豊富さやわかりやすさでクラス中の共感を得た。それは、この発表が単に防犯情報を提供するのとは全く異なり、周りの大人がどう言おうと自分の心身が傷つけられたりしても堂々と自分の正当性を訴えれば必ず認めてくれるのだというメッセージに対するものであるとも考えられる。結果的には、全校で表彰される時点では、自らの力で教師たちの評価も自らが実感できるまでに変えることができた。つまり、自分が当時の最大の人生的課題を自ら探り当て、それを社会的に解決する手段を見つけ他者へ伝達するプロセス、に自分が抱えていた課題を異世代や同世代に承認されながら意識化するというプロセスが埋め込まれていたのである。

このような学習を可能にした要因としては、学びを組織化するようなK教諭の指導の工夫によるところが大きい。このように、個人学習で自己の問題意識を研ぎ澄ますことによって、出会った大人が一人前の人間として遇してくれ、新たな社会に対する価値形成につながる学習が可能となるのである。さらにそこで一人ひとりが生き方への課題を見つけたことをクラスや学年単位で表現しあうことで、他の生徒の発表からも新たな学習や自己形成課題を見つけるプロセスにつながっている。

Hさんの場合、彼女が本を読んだりすることが苦手であることを知っていたK教諭が近隣の警察署へのインタビューを進めていた。また、授業で評価されることのなかった彼女に対し「期待しているよ」と声をかけて送り出していた。一方で、他の生徒と同様にテーマ設定の「第1ハードル」の役割をK教諭が果たし、新しい他者とのコミュニケーションをスムーズにしていたと考えられる。自らの問題意識で社会へアプローチをすることなくして、調査から「『生きた』知識が得られる」（Hさん）ような学びは望めない。女性警官に接する段階で明確な意図を相手に伝えることができることで、相手もそのメッセージに応答しようという信頼関係ができたと考えられる。また、それぞれのメッセージ性の詰まった発表を聴き合う中で、Hさんは当初調べたいと思っていた育児についても自分の姉の様子を振り返りながら子育てに対する考え方を深めていた。

これら一連の授業による学習プロセスは、社会現実との接点づくり、価値観の獲得（調査）、相互理解（調査、発表）が重層的に含み、同世代や他世代との信頼関係の構築と学習内容の共同化を含んでいた。調査における様々な段階において、K教諭、住民、生徒が応答しうる他者として現れ、自分の興味関心を社会的に追求、人に伝えられる力量を形成していった。言い換えると、自らコミットメントすることで得られた社会的接点や社会現実を通じた具体的知（もの見方）を媒介に自分の生き方を表現する力量を形成したのである。

つまり倫理という教科特性を活かしつつ定型教育でも、①自らが抱える矛盾や葛藤、抑圧を意識化し社会的な根拠を示して表現できるレトリックを獲得する、②そのレトリック獲得のプロセスがあらゆる他者との関係性の転換を伴って対話的に展開される、③価値規範を規定されていた社会とのつながりを見直しつつ自らの生き方を問う、というプロセスが自己形成課題を

意識化する学習になる可能性が示されているのではないだろうか。

ただし、本論では高校生が直面している人生の主要な課題である進路意識の形成について自由課題研究の成果との関連を十分に解明できなかった。このような充実した学習体験から自分の「生き方」を様々な社会的関係の中で追求できる場に高校全体がなるような実践的観点を見出すことが今後の課題といえよう。

また、S商では、「倫理」教科書の延長や社会問題の資料調査に止まることなく、進路や身の回りで気になっていたことやHさんのように今までの経験で悩んでいたことなどからテーマ設定を行う生徒が多く出ている。つまり、この授業では、自己に対するこだわりの粘り強い探求を行うことが設定された学習課題であることが広く生徒たちに了解されている。これは「倫理」の授業における1、2学期までの学習蓄積（自分史、家族についての授業など）との関係が大きいと考えられるが、今後の検証が必要である。

また、発表を経て現場取材していない生徒も、取材した生徒の発表に触発される。地域からさまざまな価値を形成した生徒同士の交流は、お互いの自己を刺激しあい、クラスや学年が「学び」の共同体に変わっているとK教諭は評価している。また、クラス全体の発表がその生徒たちの生き方を考える上で必要な課題をそろえていたことから、倫理における新たな系統性が身にひきつく形で再構成されていた可能性も考えられる。一方で、それを可能にする条件のひとつとして、クラスの生徒同志、生徒と担任教諭の関係の質を挙げている。クラスが自己形成への課題まで深めることのできる学習集団になるためには、生活指導などによるクラスづくりの蓄積も深く関わっているということである。これら、学びの「共同体」のその広がりや質の変化のプロセスについて検討が必要であろう。

<注>

- (1) 拙著「青年期の地域参加と自己形成」、『北海道大学大学院教育学研究科紀要』第87号、2002、p.177-194
- (2) 2003年度から実施された現在の学習指導要領では、内容構成の柱が青年期と現代社会の「生き方」を学ぶことに絞込まれた。さらには「現代の諸課題と倫理」においては生徒が課題を選択して学ぶとされている。
- (3) 専門高校も一部の商業系、工業系高校を除けば後者の型にあたると思われる。
- (4) これらは普通科進路多様校や定時制高校を統合して作られているのが現状で、正規雇用でありつづけるのが非常に困難な層であり、インターンシップ先への継続雇用が約束されている事例はない。つまり、就労に必要な専門教育すら保障されない制度である。専門高校についても、就職より進学が多い学校が増える中、接続としての機能は低下し、就労の問題が「先送り」されていると考えられる。
- (5) 正規雇用でありつづけている層は順調に結婚し子どもを持つのに対し、そうでない層は離家すらままならないという実態が明らかになっている。(三浦展『下流社会 新たな階層社会の出現』、2005、光文社 など。)
- (6) 竹内常一・高生研(編)『総合学習と学校づくり』、2001、青木書店 など。
- (7) 太田政男・浦野東洋一ほか(編)『高校教育改革に挑む』、2004、ふきのとう書房 など。
- (8) 近年では浦和商業高校定時制の事例が目ざされている。詳しくは、浦和商業高校定時制四者協議会(編)『この学校がオレを変えた』、2004、ふきのとう書房 を参照。
- (9) 門脇厚司『子どもの社会力』、岩波書店、1999、同『学校の社会力』、朝日新聞社、2002
- (10) 中西新太郎(監修)『フツーを生きぬく進路術 17歳編』、青木書店、2005
- (11) 中西「青年層の現実と即して社会的自立像を組みかえる」佐藤洋作・平塚真樹(編著)『ニート・フリーターと学力』、明石書店、2005、p.230-257
- (12) 竹内常一「いま、あらためて普通教育について考える」『教育を変える』、桜井書店、2000、p.167-195
- (13) 藤本卓、1998、「〈世代の自治〉の再発見へ」、高生研(編)『高校生活指導』1998年冬号、p.4-21
- (14) 平塚真樹「次代をひらくシティズンの形成」『ニート・フリーターと学力』、明石書店、2005、p.258-282

- (15) 久田晴生「総合学習を通して高校教育を根源的に問う」竹内常一・高生研（編）『総合学習と学校づくり』, 2001, 青木書店, p.229-250
- (16) 拙著「高校生の自主活動と自己形成」, 『北海道大学大学院教育学研究科紀要』, 第84号, p.183-208
- (17) K教諭は初任校及び前任校では一貫して現代社会を担当しており, 「地域研究」と称した地域別, 産業別のグループ学習などに取り組んでいた。これには, K教諭自身の高校時代の被教育体験と深い関わりがある。K教諭が工業高校生の頃に, 倫理で割り当てられた哲学者・思想家について調べ, クラス内で発表する授業を経験した。その時, 彼は老子について調べたことがきっかけで, エンジニア志望から「考える」ことを教える教師へと進路を大きく変えることになったのである。
- (18) 当初は3学期実施だったが, 後述の自由課題研究の実施以降は2学期後半に実施している。
- (19) 当初は学年末課題であったが, 後述の自由課題研究の実施以降は夏休み課題として実施している。
- (20) 自由課題研究授業に関するK教諭のコメント及び生徒の発表統計の一部について, 酒井友彰氏（道立高校教諭）が作成した調査資料を参照した。この場を借りて御礼申し上げる。
- (21) K教諭はこれまでの授業づくりから, 「講義では教師から生徒への一方的な知識の注入か, キャッチボールになったとしても生徒が教師の方を向かなければ（教師の考え方や伝えたいことを理解しなければ）ならない。」という問題意識を持っていた。
- (22) 「倫理は自分の生き方を考える授業でもあるから, 一人ひとりの生き方を見つけてほしいという思いがある。」（K教諭）
- (23) プリントを使用しテーマの例示を以下の通り行った。
- ①「人生」に関わるもの——結婚, 夫婦, 子育て, 教育, 高齢化社会, 介護問題
 - ②「現代」に関わるもの——情報化, 国際化, 環境問題, 南北問題, 平和問題
 - ③「思想」に関わるもの——「倫理」で扱われる思想家・宗教家について
- 2002年度以降は, 前年度までの生徒の発表テーマをまとめてより詳細な例示を行っている。
- (24) 「どのようなテーマ（問題・課題）に取り組みたいのかという個人的な興味・関心・動機をていねいに聴き取ることから出発し, そこからそれをいかにして「学問的研究」にまで高めていくのかをサポートしていく」（K教諭「響きあう「学び」をつくる授業」, 教育科学研究会（編）『教育』, No.699, 2004, p.54-60.）
- (25) 取材は公式依頼文書の送付以外は全て生徒自身で取り組む。
- (26) 試験は, 3問合計の分量がB4表面1枚に達したら合格とされ, 内容に対する評価は行われていない。
- (27) 当初は生徒の数値評価及び感想文の内容と300人余りの大人数の前のプレゼンに耐えるかどうかについて, K教諭が総合的に判断し候補を複数に絞った上で, 呼びかけに応じた生徒をクラス代表に決定していた。現在では, 生徒の数値評価の合計点によってクラス代表が選出されている。
- (28) 項目別評価の他に「総合判定」という項目を設定し, 自分のクラス以外の代表から1名を選ばせた。
- (29) 2002年度以降のテーマ例示で掲載されている項目である。
- (30) 分析にあたり, 2002年9月に行ったインタビュー（表4参照）及び感想文（表5参照）を使用した。